無尽法界に充満弥綸せらん

新潟県上越市普泉寺　小山　貴大

其（その）大旨（だいし）は、願わくは我れ設（たと）い過去の悪業（あくごう）多く重なりて障道の因縁ありとも仏道に因りて得道（とくどう）せりし諸仏諸祖我を愍（あわれ）みて業累を解脱せしめ、学道障（さわ）り無からしめ、其（その）功徳法門普（あまね）く無尽法界（むじんほっかい）に充満弥綸（みりん）せらん、哀みを我に分布すべし、仏祖の往昔（おうしゃく）は吾等（われら）なり、吾等（われら）が当来は仏祖ならん。

現代語訳

そのおおよその言おうとしていることは、次のような願いである。

私がたとえ過去に多くの悪い行為を行い、仏道修行の妨げとなる因縁があるにしても、仏道によってこの世の真意に目覚め道を得た諸仏や諸々の祖師方から、私をあわれに思ってもらい、悪い行いとその報いの連鎖から私を解き放って、仏道を学ぶのに妨げがないようにしてもらい、その懺悔の功徳の法門(おしえ)が広くすべての世界に満ちあふれ、いきわたるようにしていただきたい。どうか、仏や祖師方からあわれみの慈悲を私に分け与えていただきたい。仏や祖師方も、昔は我々と同じ迷い多き凡夫であったのだから。我々も、将来、迷いのない仏や祖師方になるであろう。

田中良盛著　修証義の教え　より引用